



# 町村自治

4月 2014 平成 26年

● 発行所 青森県町村会 ● 編集発行人 山口 昇 ● 印刷所 長尾印刷(株)  
〒030-0801 青森市新町二丁目4番1号(年4回発行) TEL 017-723-1331 FAX 017-723-1347  
ホームページ <http://www.aomori-chousonkai.jp/> E-mail [ack@aomori-chousonkai.jp](mailto:ack@aomori-chousonkai.jp)



## 一面が黄色に色づく 菜の花の町

横浜町は県内でも最大の作付面積を誇る菜の花の町。毎年5月になると、町内に点在する菜の花畑が一斉に咲き誇り、町全体に一面黄色の風景が広がります。

今年5月17日(土)、18日(日)には「2014菜の花フェスティバル in よこはま」、「第24回よこはま菜の花マラソン大会」が開催されますので、ぜひ横浜町の“春”を堪能してください。

【No. 1202】

〔菜の花畑 よこはままち 横浜町〕

- 本会定期総会…………… 2
- 自治功労者表彰名簿…………… 4
- 政務活動ほか…………… 6
- まちづくりへの挑戦 東通村…………… 12
- いまが旬!…………… 14
- 随想 野坂横浜町長…………… 18



# 青森県町村会定期総会

## 東日本大震災からの復興、地方交付税の確保など決議

### 永年の功績を称えて全国・県表彰



定期総会には町村長をはじめ約40人が出席



館岡会長が町村財政基盤の充実強化等を訴える

本会は二月十九日、青森市のラ・プラス青い森で定期総会を開催し、平成二十六年事業計画及び予算などを決定したほか、東日本大震災からの復興など十一項目の決議を採択した。また、議事に先立ち、全国町村会表彰の伝達及び青森県町村会表彰として自治功労者の表彰を行った。

定期総会には、町村長をはじめ来賓及び被表彰者など約四十人が出席した。

はじめに館岡会長があいさつし、「本日表彰を受けられる皆様には、このたびの荣誉に対し心から敬意を表し、お喜びを申し上げる。二十六年度の地方財政対策では、地方交付税が景気回復に伴う地方税収の増等により約二千億円減の十六兆九千億円となったが、地方交付税の別枠加算や歳出特別枠が確保されるなど、一般財源総額は、前年度を六千億円上回る六十兆四千億円とされたことは政府が努力・工夫をして頂いたと受け止める。しかしながら、地方の財源不足が恒常的に生じた場合は、交付税の法定率を引き上げるなど、来年度以降地

方財政の安定化を図るための措置を講ずるべきと考えている。我々町村長は、これからも力を合わせ、地域の個性を最大限に発揮しながら独自の施策を展開し、住民一人ひとりが「この町や村に住んで良かった」と実感できる町村の実現のために、邁進していくのではないかと述べた。

### 表彰

#### 自治功労者

表彰では、全国町村会表彰として、自治功労者の古川前蓬田村村長（欠席）、森内外ヶ浜町長、小又七戸町長、金澤大間町長、浜谷階上町長、須藤新郷村村長に表彰状と記念品を伝達した。

また、県町村会表彰として、自治功労者の小又七戸町長ほか、一般職員八十四名（代表・藤崎町 高木浩氏）に表彰状と記念品を授与した。

最後に、被表彰者を代表して森内外ヶ浜町長が謝辞を述べた。



三村知事が来賓祝辞を述べる

となつて議事に入り、はじめに、欠員となつていた監事に阿部今別町長を選任した。また、平成二十六年事業計画及び予算など議案四件について審議し、それぞれ原案どおり承認、決定した。



決議文を読み上げる古川副会長

境は、急速に進展する過疎化、少子高齢化や、景気回復が未だ波及していないことによる地域経済の活力低下など、極めて厳しい状況下にある。

こうした中、町村が自己決定・自己責任の原則に基づいた多様で個性的な地域社会を目指すには、財政基盤の充実・強化が不可欠である。

表彰終了後、来賓の三村知事が祝辞を述べ、また、同じく来賓として出席の袖谷県町村議会議長会会長、中村県総務部長、田中県総務部市町村課長が紹介された。

## 議事

### 二十六年予算案を

### 原案どおり決定

引き続き、館岡会長が議長

また、古川副会長が「東日本大震災からの復興と農畜水産物等の風評被害対策並びに防災・減災対策の強力な推進」など十一項目の決議を朗読し、満場一致で採択した。なお、決議の実行運動の方法については、理事会に一任することとした。

議案及び議決の内容は次のとおり。

○議案第一号 平成二十六年度青森県町村会事業計画案（抜粋） Ⅱ 町村を取りまく環

境は、急速に進展する過疎化、少子高齢化や、景気回復が未だ波及していないことによる地域経済の活力低下など、極めて厳しい状況下にある。

こうした中、町村が自己決定・自己責任の原則に基づいた多様で個性的な地域社会を目指すには、財政基盤の充実・強化が不可欠である。

このため、平成二十六年度の会務運営は、県、全国町村会及び関係団体と連携を緊密にして、町村自治確立のため、町村財政基盤の強化など町村が抱える諸課題の解決に向けた政務活動を、県内町村の創意と英知を結集しながら積極的に実施する。また、本会の主要事業である町村長の健康維持増進のための健康管理事業をはじめ、町村長並びに町村職員の研修、表彰、町村職員採用試験、法令外負担金の規制、会報活動等をこれまで以上に効果的・効率的に実施する。共済関係八事業については、公有財産の保全、町村職員の生活安定を図る立場から、市町村に対して、加入・継続を積極的に推進する。これらをもつて町村の振興発展

## 決 議（項目抜粋）

- 1 東日本大震災からの復興と農畜水産物等の風評被害対策並びに防災・減災対策を強力に推進すること
- 1 必要な地方交付税額等を確保するとともに、財源調整・財源保障の両機能を堅持すること
- 1 償却資産に係る固定資産税及びゴルフ場利用税を堅持するとともに、自動車取得税等の見直しにあたっては、町村財政に減収が生じないように、代替財源の確保を図ること
- 1 真の地方分権改革を強力に推進すること
- 1 市町村の強制合併につながる道州制は導入しないこと
- 1 TPP交渉にあたっては、国益の堅持と重要5品目等聖域の確保に万全を期すこと
- 1 農林漁業の振興による農山漁村の再生・活性化を図るとともに、現場の実情を踏まえた米政策の実現及び食の安全・安心の確保を図ること
- 1 東北新幹線全線開業効果の継続獲得と観光振興を図ること
- 1 道路、生活環境など社会資本整備に係る公共事業費の必要額を確保するとともに、道路交通ネットワークの整備促進を図ること
- 1 厳しい雇用情勢の中、雇用・就業機会の創出のため、効果的な雇用対策を推進すること
- 1 少子高齢化の進行に対応した医療・保健・福祉施策を強力に推進するとともに、地域医療の確保・充実のため医師確保対策を推進すること

と活力ある地域社会の実現に寄与していくものである。

○議案第二号 平成二十六年度青森県町村会会費案Ⅱ 会費総額は、六百四十九万二千元とする。

○議案第三号 平成二十六年度青森県町村会一般会計予算案Ⅱ 収入支出予算総額を、収

入支出それぞれ二億七千九百二十八万九千円（対前年度比四百九十三万円、一・八%増）とする。

○議案第四号 平成二十六年度青森県町村会公有物件共済事業等特別会計予算案Ⅱ 経常収支計を、五千二百九十五万九千円とする。

全国町村会表彰

自治功労者（敬称略）

町村長（在職四期以上退任）

東津軽郡蓬田村

古川 正隆

町村長（就任三期）

東津軽郡外ヶ浜町

森内 勇

上北郡七戸町

小又 勉

下北郡大間町

金澤 満春

三戸郡階上町

浜谷 豊美

三戸郡新郷村

須藤 良美

青森県町村会表彰

自治功労者（敬称略）

町村長（在職十年以上）

上北郡七戸町

小又 勉

一般職の職員

（在職二十五年以上）

平内町 渡辺伸一、船橋英樹、

工藤隆之進、渡邊仁志、立石

智代美、佐藤光枝、吉川美奈

子

外ヶ浜町 北田信道、木村学、

登坂光春、高森殖、工藤学

蓬田村 川崎幸治

鱈ヶ沢町 神静、工藤淳、工

藤章彦、笹村寛志、澁谷和彦、

千島裕治

深浦町 菊池隆志、奥村幸樹、

小野規子、菊池浩雅、黒滝秀

晴、八木橋兼喜、秦賢一

藤崎町 高木浩、高木秀光、

佐々木孝尚

板柳町 對馬勝治、大井俊介、

安達てる子

鶴田町 葛西由美子

七戸町 氣田雅之、岡田晋、

甲田美喜雄

東通村 石田義宏

風間浦村 竹村勝久

佐井村 佐々木一志

三戸町 貝守昌子

五戸町 松坂力、川村豊、早

狩千春、向山佳子、大山和歌

子、若田部修、田守百合子、

川村美奈子、三浦民子

田子町 宮村博幸

南部町 岩木育子、庭田貴之、

中村貞雄、戸室正樹、金山定

美、小橋昭裕、岩間雅之、佐々

木朋治、夏堀勝徳、夏堀昌也、

夏堀恵、階上淑江



森内外ヶ浜町長が被表彰者を代表し謝辞



奥から森内外ヶ浜町長、小又七戸町長、金澤大間町長、浜谷階上町長、須藤新郷村長、藤崎町の高木氏

中部上北広域事業組合 和田  
憲誠、附田弘子、甲田照子、  
石田温、立石俊樹、山中清子、  
高田祐一、工藤みわ、田高久  
仁子、原子敬子、吉田正子  
北部上北広域事務組合 藤谷

あゆみ、横浜節子、風穴武寿、  
三角久二夫、成田博典、赤石  
久美子、市ノ渡美香、荒谷路  
美、柴崎栄子  
鱈ヶ沢地区消防事務組合 寺  
沢則明、佐藤匡浩

# 26年度事業計画などを審議

## 第1回理事会・生協支部委員会

本会は二月十九日の定期総会に先立ち、二月三日、青森市のラ・プラス青い森で、平成二十六年第一回理事会を開催した。出席者は、館岡会長をはじめ役員町村長十一人。理事会では、二十六年事業計画などの議案五件及び、定期総会次第などの協議事項七件について審議し、それぞれ原案どおり承認、決定し、事業計画及び予算案は二月十九日開催の本会定期総会に提出することとした。

### 議案

- 議案第一号 平成二十六年 度青森県町村会事業計画案
- 議案第二号 平成二十六年 度青森県町村会一般会計予算案
- 議案第三号 平成二十六年 度青森県町村会一般会計予算案
- 議案第四号 平成二十六年 度青森県町村会公有物件共済事業等特別会計予算案
- 議案第五号 青森県町村会常務理事の任期に関する規程の一部を改正する規程案

議案及び協議事項は次のと

### 協議事項

- 協議事項1 平成二十六年 第一回青森県町村会定期総会次第案
- 協議事項2 本会監事の補充選任
- 協議事項3 決議案
- 協議事項4 平成二十七年 度予算編成及び施策に関する要望運動案
- 協議事項5 町村長の健康



### 管理研修会

- 協議事項6 北東北三県町村長中央研修会・交流会の実施案
- 協議事項7 青森県町村会創立九十周年記念事業案

支部は委員会を開催し、議案一件を原案どおり承認、決定し、本会定期総会に報告することとした。

- 1 東日本大震災からの復興と防災・減災対策について
- 2 道州制について
- 3 町村財政基盤の充実強化について
- 4 観光客誘客対策の強化について

## 第一回生協支部委員会

理事会終了後、引き続き、全国町村職員生活協同組合

- 議案第一号 平成二十六年 度全国町村職員生活協同組合 青森県支部会計予算案

## 市町村長会議提言事項を決定

### 第2回理事会

本会は三月十九日、青森市の県共同ビルで平成二十六年第二回理事会を開催した。出席者は、館岡会長をはじめ役員町村長十一人。

改正する規程案

### 協議事項

- 協議事項1 平成二十六年 度市町村長会議(町村の部)について
- 協議事項2 平成二十六年 度市町村長会議(町村の部)の提言事項について
- 協議事項3 平成二十六年 度市町村長会議(町村の部)の提言事項について
- 協議事項4 平成二十六年 度市町村長会議(町村の部)の提言事項について
- 協議事項5 平成二十六年 度市町村長会議(町村の部)の提言事項について



- 5 電子行政の推進について
- 6 青年交流事業の実施について
- 7 海岸漂着物の廃棄処理対策について
- 8 総合的な子育て支援対策の推進について
- 9 地域医療対策について
- 10 国民健康保険制度の安定運営について
- 11 健康づくりと健康寿命の延伸について
- 12 雇用施策の推進について
- 13 農林水産業の振興について
- 14 社会基盤の整備促進等について
- 15 学校施設等の防災機能の強化等について

# TPP協定交渉で緊急要請

## 県内地方六団体等が合同で

本会など県内地方六団体と農協中央会は二月五日、東京都内で、TPP協定交渉に関する緊急要請を実施した。

これは、TPP協定交渉の協議が進む中、その内容について国民に対する詳細な情報が示されておらず、先行きが

危惧されることから、十分な

情報提供及び説明や、農林水

産分野の重要品目の関税維持

などを求め実施したもの。

要請には、本会の館岡会長

や三村知事らが参加し、内閣

官房TPP対策本部の佐々木

国内調整総括官に面談のうえ、

要請事項を強く求めた。

要請に対し佐々木国内調整

総括官は、今後とも政府一体

となって国益を守る形で交渉

に臨んでいくとともに、可能

な限りの情報は提供していきたい、などと述べた。

## TPP協定交渉に関する緊急要請

TPP協定は、本県の基幹産業である農林水産業のみならず、国民生活や経済活動の幅広い分野に大きな影響を及ぼすことが懸念されており、これまで、国に対して交渉参加に反対の立場から様々な機会を捉え、幾度となく交渉参加を行わないよう求めてきました。

このような中、国においては、平成25年7月のTPP交渉会合正式参加以降5回の交渉会合に臨んだところですが、この間、国民に対する詳細な情報の提供が行われておらず、国民的議論が尽くされていない状況下で交渉が進展していることは、誠に遺憾と言わざるを得ません。また、県内の様々な団体等からも交渉の先行きを危惧する声が上がっています。

国においては、平成25年4月の衆参両院農林水産委員会における決議を踏まえ、国民への十分な情報提供と説明を行い、農林水産分野における重要品目の関税を維持するなど、我が国の基幹産業である農林水産業が将来にわたり持続的に発展していけるよう、万全な対応を行うことを強く求めます。

## 26年度予算

### など決定

#### 総合事務組合

県市町村総合事務組合は、二月十九日、青森市のラ・プラス青い森で平成二十六年第一回議会定例会を開催した。出席者は、館岡管理者をはじめ、議員等十市町村長。

はじめに、議員の任期満了に伴う組織会において、議長に森内外ヶ浜町長、副議長に飯田風間浦村長をそれぞれ選

任した。引き続き、館岡管理者が平成二十六年度予算など、四件の議案の提案理由を説明

し、それぞれ審議した結果、原案どおり承認、決定した。

議案・報告は次のとおり。

#### 議案

○議案第一号 平成二十六年  
度青森県市町村総合事務組合  
一般会計予算案Ⅱ歳入歳出予  
算総額を、歳入歳出それぞれ  
八億七千四百六十六万九千円  
(対前年度比七千九百九十一  
万余円、十・一%増)とする。

○議案第二号 平成二十六  
年度青森県市町村総合事務  
組合市町村税滞納整理特別

会計予算案Ⅱ歳入歳出予算  
総額を、歳入歳出それぞれ  
六千二百四十万五千円(対前  
年度比七十一万千円、一・二%  
増)とする。

○議案第三号 青森県市町村  
総合事務組合職員の給与の特  
例に関する条例の一部を改正  
する条例案Ⅱ県が五十五歳を  
超える職員に係る昇給制度、  
並びに四輪の自動車を使用す  
る職員の通勤手当の額を改め  
たことに伴い、所要の改正等  
を行うもの。

○議案第四号 監査委員の選  
任について同意を求めるとの件  
Ⅱ議員のうちから選任した監  
査委員の任期が平成二十五年  
十一月三十日で満了となった  
ことから、新たに山田大鰐町  
長を選任した。



提案理由を説明する館岡管理者

# 農林水産物等の

## 販路拡大で意見交換

### 拡大産業経済委員会

本会は一月八日、青森市のラ・プラス青い森で拡大産業経済委員会を開催した。

本委員会は、昨今の農林水産業・農山漁村を取り巻く厳しい環境の中、課題の一つである農林水産物等の国内販売

及び海外輸出に関し、現状と

その課題等を理解し、今後の各町村の農林水産物等の販路

拡大方策についてともに考えることを目的に開催した。

販路拡大に関しては、全町村共通の課題のため、拡大委

## 本会等からの要望を受け 地域振興支援制度を新創設

県は、平成二十六年一度一

般会計予算において、平成

二十五年年度末で期限切れを迎えた原子燃料サイクル事業

推進特別対策事業及び地域・産業振興プロジェクト支

援事業に代わる新たな支援措置として、「原子力施設立

地振興対策事業費補助」(単年度四・九億円、五か年総額

二十四・五億円)及び「地域・産業振興プロジェクト支援事

業運用資金貸付金」(貸付金額五十億円、貸付期間十年間)

の制度を創設した。

本会では昨年十月、市長会

との連名により、原子力施設の立地に伴う地域振興対策に

関する要望運動を実施。昨今の電力各社の厳しい経営状況

等を踏まえ、引き続き電気事業連合会等からの寄付を要請

することは大変難しい状況にあるとの認識の下、立地・周

辺以外の市町村への支援制度の創設並びに、地域づくり、

産業づくりに係る支援事業の維持確保を求めている。

員会の位置付けで全町村長を対象に開催し、会議には十九町村長(代理出席副町長一名含)が出席した。

委員会では、鈴木委員長

(田舎館村長)のあいさつに続き、国内分として、県農林

水産部総合販売戦略課の村上課長が「青森県総合販売戦略

セカンドステージに基づく平成二十四年度の取組状況及び

二十五年度の分野別取組」について、また海外分として、

日本貿易振興機構(ジェトロ)

## 地域経済の 活性化を

### 農山漁村活性化研修会

本会に事務局を置く全国山

村過疎地域振興連盟県支部並びに本会、県市長会、県市町

村振興協会は四者共催により、二月二十八日、青森市のホテ

ル青森で農山漁村活性化研修会を開催した。出席者は、町



村上総合販売戦略課長(右)と奥ジェトロ青森貿易情報センター所長(左)が説明

青森貿易情報センターの奥所長が「農林水産物・食品の輸出をめぐる状況とジェトロの

村長をはじめ県市町村の担当者等約六十人。

本研修会は、地域の価値ある自然や文化を継承しながら、農山漁村の自立・再生を目指すことを目的に、毎年開催しているもの。

はじめに主催者を代表し、全国山村過疎地域振興連盟県支部の野坂副支部長(横浜町長)があいさつした。引き続き、東京農業大学教授で一般社団法人北海道活性化機構代表理事の木村俊昭氏が「地域

経済の活性化」実学・現場重視の視点から」と題し、産業文化を地域から世界に向け

支援」と題し、それぞれ説明した。

説明後、質疑応答及び意見交換を行い、出席町村長からは販路拡大に向けた様々な意見が出されたほか、館岡会長から板柳町におけるりんご輸出等の取組事例の紹介があった。

本会では、委員会での意見交換等を踏まえ、物産の販売戦略に係る各町村への支援に關して、今後、具体的に検討を進めていくこととした。

て発信するまちづくりの手法や、未来を担う子供たちを地域一体で愛着心を持てるように養成するひとつづくりなど、これまでの経験を踏まえ、具体事例を交えながら講演した。



講師は東京農業大学教授の木村俊昭氏

平成25年度町村職員採用試験申込者数

(単位：人)

No.	団体名	職 種											合計	
		上 級				中 級				初 級				社会人
		行政	土木	建築	保健師	一般	保育士	社会福祉	保健師	看護師	一般	消防	電気	
1	平内町	24	1								7			32
2	今別町	2								1	8			11
3	外ヶ浜町										9	5		14
4	蓬田村										8	4		12
5	鯨ヶ沢町						4				20			24
6	深浦町										15		1	16
7	藤崎町	41											5	46
8	大鰐町	30									3			33
9	田舎館村										40			40
10	板柳町	23							2					25
11	鶴田町	21		1	9								1	32
12	中泊町	27		1							4			32
13	野辺地町	23		2							22	16		63
14	七戸町										57			57
15	六戸町	24										6		30
16	横浜町										9	2		11
17	東北町	33						2			4			39
18	おいらせ町	31				9					10			50
19	六ヶ所村	7	1								4	1		13
20	東通村	10												10
21	風間浦村										3			3
22	佐井村										9			9
23	三戸町	13				3		2		9	3		13	43
24	五戸町	24	2					1						27
25	田子町	5									3			8
26	南部町	30		1						5	22			58
27	階上町	28						4						32
28	新郷村	6						2						8
29	中部上北広域事業組合											19		19
30	北部上北広域事務組合											3		3
合計		402	4	5	9	12	4	11	2	15	260	56	7	800

25年度実施状況

町村等職員（一部事務組合等含む）の任用事務の公平・

町村職員採用試験の二十五年実施状況は左表のとおり。

効率化を図るため、本会が町村等の要請に基づき実施する

町村職員採用試験  
25年度実施状況と26年度実施について

実施日は、日本人事試験研究センターが定めた七月二十八日（日）、九月二十二日（日）の二回の全国統一試験と、その他の期日に実施した個別試験。

実施団体は、三十団体

実施日は、日本人事試験研究センターが定めた七月二十八日（日）、九月二十二日（日）の二回の全国統一試験と、その他の期日に実施した個別試験。

26年度実施申込受付中

二十六年度に町村職員採用試験の実施を申込みする団体は、本会指定の期日までに、所定の様式にて本会へお知らせ願います。実施申込みや試験実施科目など、ご不明な点は本会業務課【電話017(723)1331】にお問い合わせ願います。

〇場所

第一、二回とも青森市内

〇実施申込方法

各団体に既にご案内している「平成二十六年度町村職員採用試験実施申込書」を、四月三十日（水）までに本会へ送付願います。

エネルギー講演会開催される

東北エネルギー懇談会と青森県エネルギー問題懇談会連絡協議会は、一月二十一日、青森市内でエネルギー講演会を開催し、関係者約二百人が参加した。

本会のエネルギー政策特別委員会では、当講演会を町村長の原子力並びにエネルギー政策の理解を深めることを目的に実施する本委員会の研修会と位置付けることとしたも

二十六年度町村職員採用統一試験の概要

〇試験期日・職種

・第一回（上級試験）

平成二十六年七月二十七日（日）

・第二回（中・初級試験）

平成二十六年九月二十一日（日）

講演会では、東北エネルギー懇談会の高橋会長のあいさつに続き、広島大学大学院教授の奥村晃史氏が「活断層調査をめぐる問題」と題し、また、ジャーナリストの東谷暁氏が「歪み続ける原子力を巡る言論〜福島第一原発事故後の情報空間」と題し、それぞれ講演した。

## 26年県広報コンクール

### 広報紙総合の部「広報みさわ」が特選



本会に事務局を置く県広報広聴協議会は、一月三十日、青森市の県共同ビルで平成二十六年県広報コンクール審査会を開催した。

同コンクールは市町村の広報活動の向上を目的に開催しているもので、県内市町村から広報紙十九点、写真三十一点、映像二点の応募があった。六名の審査委員による厳正

な審査の結果、広報紙総合の部で三沢市の「広報みさわ」(25年2月号)が特選に、弘前市の「広報ひろさき」(25年2月1日号)が準特選となった。

上位入賞作品は、日本広報協会主催の全国広報コンクールに県代表として推薦する。入賞作品は次のとおり。

### 平成26年青森県広報コンクール審査結果

#### 広報紙部門(総合の部)

特選 三沢市「広報みさわ」 2月号※  
準特選 弘前市「広報ひろさき」 2月1日号※

#### 広報紙部門(市部)

入選 十和田市「広報とわだ」 10月号  
佳作 つがる市「広報つがる」 8月号  
奨励賞 八戸市「広報はちのへ」 4月号  
奨励賞 平川市「広報ひらかわ」 8月号

#### 広報紙部門(町村部)

入選 おいらせ町「広報おいらせ」 10月号  
佳作 三戸町「広報さんのへ」 12月号  
奨励賞 板柳町「広報いたやなぎ」 11月号  
奨励賞 南部町「広報なんぶちょう」 12月号

#### 広報写真部門(一枚写真の部)

入選 つがる市「広報つがる」 8月号※  
佳作 八戸市「広報はちのへ」 9月号  
奨励賞 十和田市「広報とわだ」 4月号  
奨励賞 平内町「広報ひらない」 10月号  
奨励賞 おいらせ町「広報おいらせ」 5月号  
奨励賞 六ヶ所村「広報ろっかしょ」 2月号

#### 広報写真部門(組み写真の部)

入選 十和田市「広報とわだ」 10月号  
佳作 蓬田村「広報よもぎた」 10月号※  
奨励賞 弘前市「広報ひろさき」 9月1日号

#### 映像部門

入選 青森市 ※  
「防災クエスチョンin AOMORI ~いつも心に防災意識を~」  
佳作 八戸市 ※  
「八戸の公共交通~はちこと行くキューティーな路線バスの旅~」

※印は日本広報協会主催の全国広報コンクールへの推薦作品  
全国広報コンクールへの推薦団体は日本広報協会の会員団体

## 東京で「町イチ!村イチ!2014」

### 県内14町村も特産品PR

一月十一日、十二日、全国の町村が一堂に会し、特産品や観光資源等の「宝」をアピールすることを目的として、全国町村会主催のイベント「町イチ!村イチ!2014」が町

トでは、特産品の展示・販売、郷土芸能の披露のほか、新たに開発された特産品や新商品を紹介するコーナーが新設された。

村から日本を元気にする「村が、東京国際フォーラム(メイン会場)、有楽町駅前地上広場(サテライト会場)の二会場で開催された。通算二回目の開催となる今回のイベン

今回は、全国九百二十九町村のうち、三百四十二の町村(本県十四町村含む)が参加し、二日間で前回を大きく上回る五万二千人の来場者があった。展示・販売コーナーには全国各地の特産品が出品



賑わう展示・販売コーナー

されたほか、「町イチ!村イチ!食堂」での郷土料理の販売や、ご当地キャラクターの出演など、それぞれの出展町村が「イチ押し」を披露した。

## 3町村で首長選挙



南部町長

工藤 祐直 氏

任期満了に伴う南部町長選挙は、一月二十一日告示され、現職の工藤祐直氏（58）が、無投票で三選を果たしました。  
（略歴）旧名川町長、旧名川町農林課係長



おいらせ町長

三村 正太郎 氏

任期満了に伴うおいらせ町長選挙は、二月二十三日、投票が行われ、元職の三村正太郎氏（64）が、当選を果たしました。  
（略歴）旧百石町長、旧百石町議会副議長



西目屋村長

関 和典 氏

任期満了に伴う西目屋村長選挙は、一月二十一日告示され、現職の関和典氏（47）が、無投票で三選を果たしました。  
（略歴）村監査委員、村議会副議長

## 平成26年度町村会関係主な行事予定

会議等の名称	日時	場所
町村会 理事会	6月2日（月） 11時	町村会役員室
広報広聴協議会 理事会	6月2日（月） 13時	町村会会議室
全国山村過疎地域振興連盟県支部 理事会	6月2日（月） 13時15分	町村会役員室
発電関係市町村全国協議会県支部 総会	6月2日（月） 13時30分	町村会会議室
総務厚生委員会	6月3日（火） 10時30分	ラ・プラス青い森
産業経済委員会	6月3日（火） 10時30分	ラ・プラス青い森
市町村長会議（町村の部）	6月3日（火） 13時30分	ラ・プラス青い森
平成27年度政府予算編成及び施策に関する要望運動	6月予定	青森市内
町村会 監査会	7月中旬予定	町村会役員室
町村会 理事会	8月上旬予定	町村会役員室
町村長健康管理研修	8月26日（火）～28日（木） 1日目 定期総会 15時 2日目 健康管理研修 3日目 半日ドック	鱈ヶ沢町 グランメール山海荘 青森市・総合健診センター
町村会 理事会	10月予定	町村会役員室
創立90周年記念式典	10月予定	青森市内
法令外負担金等委員会	11月予定	町村会役員室
県選出国議員との懇談会	11月18日（火） 17時	東京都・ホテルニューオータニ
全国町村長大会	11月19日（水） 正午	東京都・NHKホール
北東北三県町村長中央研修会・交流会 （岩手県・秋田県町村会との合同開催）	11月19日（水） 研修会 15時30分 交流会 17時15分	東京都・ホテルニューオータニ
町村長行政調査研修	未定	未定

## 町村の魅力発信事業助成事業を是非ご利用ください

「町村の魅力発信事業助成事業」は、平成26年度もこれまでと同様の趣旨で実施しますので、積極的なご活用をお願いいたします。

### 主な助成内容

- 1 助成金額…200万円を限度に実費助成
- 2 助成対象経費  
謝金、旅費、印刷製本費・複写費、賃借料、通信運搬費、共同事業に関する負担金、その他事業を行う上で本会会長が必要と認める事業

### 申請期限

平成26年6月2日（月）までに、別に定める事業計画申請書を本会へ提出願います。

## 各地域づくり研究会の活動を継続しています

本会が設立に携わり支援している、津軽地域づくり研究会、上十三地域づくり研究会及び下北地域づくり研究会は、自治体職員の資質向上を図るため、平成26年度も活動を継続して進めて参ります。興味のある市町村職員の皆さん、他市町村の自治体職員と共に、自己研鑽してみませんか。

### 津軽地域づくり研究会

#### アドバイザー

弘前大学教授

### 対象市町村等及び25年度会員数

弘前市、黒石市、五所川原市、つがる市、平川市、平内町、今別町、外ヶ浜町、蓬田村、鱒ヶ沢町、深浦町、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町、中北地域県民局、西北地域県民局 計23名

### 上十三・下北地域づくり研究会

#### アドバイザー

青森公立大学 経営経済学部教授 天野巡一氏

### 対象市町村等及び25年度会員数

- ①上十三地域づくり研究会  
十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、おいらせ町、六ヶ所村 上北地域県民局 計37名
- ②下北地域づくり研究会  
むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、下北地域県民局 計26名

### 問合せ先

町村の魅力発信事業助成事業並びに地域づくり研究会に関して  
は、いずれも本会業務課（電話：017-723-1331）まで。

## 青森県町村長等名簿

平成26年4月1日現在  
町村数30町村(22町8村)

区分		町 村 長	生年月日	当選回数	任期満了年月日	副町村長
東郡	平内町	船橋茂久	S24. 7. 17	1	27. 11. 14	山田光昭
	今別町	阿部義治	S25. 9. 18	1	29. 10. 12	
	外ヶ浜町	森内勇	S13. 3. 2	3	29. 4. 23	沼田謙市
	蓬田村	久慈修一	S25. 8. 1	1	29. 11. 8	
西郡	鱒ヶ沢町	東條昭彦	S16. 4. 15	2	29. 12. 26	長内仁
	深浦町	吉田満	S28. 9. 9	2	28. 12. 20	菊池雄司
中郡	西目屋村	関和典	S42. 2. 24	3	30. 2. 25	
南郡	藤崎町	平田博幸	S32. 6. 2	1	27. 11. 19	
	大鰐町	山田年伸	S27. 3. 11	1	26. 7. 21	
	田舎館村	鈴木孝雄	S12. 2. 10	3	28. 11. 17	葛面幸男
北郡	板柳町	館岡一郎	S18. 3. 4	4	27. 4. 29	成田誠一
	鶴田町	中野撃司	S 4. 11. 7	10	26. 8. 20	山本一郎
	中泊町	小野俊逸	S17. 7. 29	5	29. 4. 23	秋元良一
上北郡	野辺地町	中谷純逸	S24. 8. 16	1	27. 10. 26	松山英樹
	七戸町	小又勉	S24. 1. 2	3	29. 4. 23	似鳥和彦
	六戸町	吉田豊	S25. 3. 28	6	28. 1. 27	保土澤正教
	横浜町	野坂充	S26. 1. 31	3	28. 12. 11	新渡喜広
	東北町	斗賀壽一	S19. 7. 2	2	29. 4. 23	蛭名敏治
	おいらせ町	三村正太郎	S24. 10. 7	5	30. 3. 25	
下北郡	六ヶ所村	古川健治	S 9. 5. 28	3	26. 7. 6	
	大間町	金澤満春	S25. 3. 9	3	29. 1. 18	菊池武利
	東通村	越善靖夫	S17. 1. 7	5	29. 4. 12	林春美
	風間浦村	飯田浩一	S35. 5. 5	1	27. 4. 23	
三戸郡	佐井村	太田健一	S26. 11. 25	4	29. 4. 21	
	三戸町	竹原義人	S25. 11. 28	2	28. 12. 15	藤村正彦
	五戸町	三浦正名	S29. 1. 1	4	27. 6. 26	鳥谷部禮三郎
	田子町	山本晴美	S39. 4. 10	1	28. 1. 14	原昌徳
	南部町	工藤祐直	S30. 5. 22	5	30. 2. 11	坂本勝二
新郷村	階上町	浜谷豊美	S31. 8. 23	3	29. 12. 23	久保和子
	新郷村	須藤良美	S15. 3. 29	3	29. 5. 28	横田孝夫



## 保幼小中一貫教育と教育環境の充実

# 魅力的かつ先進的な教育の村づくり

## 次世代を担う人材の育成



英語教育の様子（小学校）

東通村は、村総合教育プラン「教育環境デザインひがしどおり21」に基づき、保幼小中一貫教育など総合的な教育環境の充実による人材育成、人口定住促進を目指し、独自の先進的な教育の村づくりを推進しています。

### 村総合教育プランの策定

村では、乳幼児、小・中学校、家庭・地域など各面での教育環境の現状と課題の検証を踏まえ、平成十七年三月、村総合教育プラン「教育環境デザインひがしどおり21」を策定しました。

同プランでは、「人づくりのための学力の充実」を基本的方向性として定め、また、最終的目標に、二十一世紀の国際的リーダーと村をリードする次世代の優秀な人材を輩

出すること、教育環境デザインの具現化により、子供を持つ世帯に魅力的かつ先進的な教育の村として、定住志向を高め、県内外からの移住取り込みを図ることを掲げています。

### 保幼小中一貫教育の推進

村では、0歳から十五歳までの子どもの育ちを繋げるため、保幼小中一貫教育を推進しており、平成二十一年度从小中一貫教育が本格導入され、いよいよ今年、こども園の卒



平成24年4月に開園した「こども園ひがしどおり」

園生が初めて小学校に入学し、保幼小中一貫教育の実践となりました。

子どもにとって切れ目のない学校教育体系を構築し、こども園と小中学校が連携を図るとともに、乳幼児保育・教育から中学校までの接続に配慮した指導計画となるよう工夫改善が図られています。

村内にある「こども園ひがしどおり」「東通小学校」「東通中学校」は施設一体型での充実した教育環境エリアが構築され、計画的に教員の協力的な指導や少人数指導、授業研究会、行事交流会等の機会



東通科の授業の様子（小学校）

を積極的に生かして相互の理解を深め、一貫性のある教育環境の提供に努めています。

### 村費負担教員採用で教育充実

村では、平成十七年度から村費負担の非常勤講師を公募し加配していましたが、同年、村が独自に小・中学校常勤講師を公募・採用するため国に申請していた「東通村」が認定された。当時、市町村費負担による常勤講師の採用は、東北初の取り組みでした。特区認定以降は、毎年、村



海外研修の様子（中学校）

独自で常勤講師を採用、平成二十一年度からは教諭も採用しており、少人数学級、習熟度別学習、ティームティーチング、教科専任制等のきめ細かい学習活動を展開し、学力の向上を図っています。

### 英語活動・国際化教育の推進

平成十八年度には「東通村英語教育特区」が認定され、翌年度に東通小学校の全学年の教育課程に英語科を設置。小学校の段階で児童が自分の考えや身近な事を英語で伝えるコミュニケーション能力の基礎を培い、中学校卒業時には、堂々と自信をもって英語でのコミュニケーションができる力を付けるとともに、外国の文化等に直接触れる機会を設け、豊かな国際感覚を備え、国際社会で活躍できる人材を育成することを目的としています。

また、こども園においても村から派遣されたALT主体のもと、ネイティブ英語の歌やゲーム等の遊びを通して英語活動が展開されており、幼少のスムーズな接続を意識し、

小学校外国語活動の準備段階として適切なテーマや活動が盛り込まれた内容となっています。

### 「東通学」の充実

保幼小中一貫教育の柱の一つでもある「東通学」は、小学校で学ぶ従来の教科や教育課程外の学校教育活動に加え、村に固有のものを積極的に教材として取り上げた「東通科」を中心に連携させるもので、人づくりを推し進める原動力となる「創造する力」を育む場として位置付けたもの。

この東通学を学んだ子供たちが、保幼・小・中を通して培った「育ちの検証・成果」を発信していくことを見据え、保幼小中一貫教育が単なる受験学力の向上ではなく、トータルな人材育成、人づくりであることを実践したものと なっています。

### 村営学習塾を開設

平成十七年には、中学生を対象に「東通村学習塾」を開設。現在、村内中学生を対象

に毎週水・土曜日に開講しています。

村内には、現在、学習塾等が皆無な状況で、むつ市まで通わざるを得ない状況、交通手段がなくて通えない状況、金銭的な問題等で通いたくても通えない状況が多く見受けられたため、これらを解消し、教育環境を整えることを目的に設置したものです。

教材費・テキスト代は保護者負担ですが、むつ市内の学習塾から招いている講師への謝礼等は村が負担しています。

### 今後の展望

村では、今後も引き続き、さまざまな教育環境づくりに取り組むことで、保護者・住民が深く学校教育に参画し、教育に対する気運が醸成され、保護者・住民・学校・教育行政が一体となって教育環境の充実を図っていくこととしています。

※東通村の教育の村づくりに関するお問い合わせは、東通村教育委員会（0175-27-2111）までお願いします。



問い合わせ先 蓬田村ふれあいセンターよもぎ温泉  
TEL 0174-27-2170

140人を収容できる大浴場と、打たせ湯、サウナを備えた湯は、村民だけでなく観光客も癒してくれる憩いの場。海で山でたっぷりと大自然を満喫したあとは、やっぱり温泉がいちばん。

- 開館時間／午前9時～午後9時
- 休館日／毎週火曜日（火曜日が祝日の場合は翌日）
- 入浴料／大人 350円 小・中学生 140円 幼児 60円

温泉に行こう！

「よもぎ温泉」

いまが旬!  
よもぎたむら  
蓬田村

東津軽郡



問い合わせ先 (一社) 鱒ヶ沢町観光協会 TEL 0173-72-5004  
白神の森 遊山道 TEL 0173-79-2009

平成9年のオープン以来、皆さまに親しまれてきたブナ林散策ゾーン「ミニ白神」が、今年度より『白神の森遊山道』に名称変更し再スタートします。季節ごとに移り変わるブナの森を歩いてみませんか？

- ◆入山情報：4月20日～10月31日（期間中無休）※料金等その他詳しくはお問合せください。

『ミニ白神』の名称が  
変わります！いまが旬!  
あしがさわまち  
鱒ヶ沢町

西津軽郡



問い合わせ先 大鰐町役場企画観光課  
TEL 0172-48-2111

大鰐温泉スキー場として知られる「あじやら公園」の中にひっそり佇む茶室。桜の園と呼ばれるエリアで、知る人ぞ知る桜の花見ポイントとして人気があります。

ご家族連れでゆっくりと園内を散策しながら、春を満喫できるスポットです。公園内からは残雪を抱く岩木山など津軽平野も遠望できます。

大鰐温泉のご入浴と合わせて、是非一度足を運んで見てはいかがでしょうか。

あじやら公園の桜

いまが旬!  
おおわにまち  
大鰐町

南津軽郡



問い合わせ先 七戸町役場商工観光課  
TEL 0176-62-2137

七戸町の春を彩る「天王つつじまつり」が、5月中旬から下旬に、七戸町天王神社境内で開催されます。燃えるように真っ赤なつつじが、境内一面に咲き乱れる様子は絶景です。ぜひお越しください。

(ライトアップ時間：午後6時頃からの予定)

※七戸町役場七戸庁舎または相葉館の駐車場をご利用ください。

天王つつじまつり

いまが旬!  
しちのへまち  
七戸町

上北郡

いまが旬!  
ろっかしよむら  
**六ヶ所村**  
上北郡

**2014たのしむべ!**  
フェスティバル

桜のころ、村では『2014たのしむべ! フェスティバル』が開催されます。  
県南で春一番に打ち上げられる花火大会をはじめ、賑やかなステージイベントなど、子どもから大人まで楽しめる多彩なイベントが盛りだくさん。どうぞご来場ください。  
◎5月10日(土)オープニングイベント・花火大会、11日(日)お笑いステージ・ビンゴ大会など



問い合わせ先 六ヶ所村役場 商工観光課 (六ヶ所村観光協会事務局)  
TEL 0175-72-2111 (内線 264)

いまが旬!  
おおままち  
**大間町**  
下北郡

**大間町海峡保養センター**

大間町海峡保養センターは本州最北の温泉です。泉質はナトリウム、カルシウム(塩化物泉)で、リウマチや運動器障害などに効果があります。  
ご宿泊はもちろん日帰り入浴やお食事もお楽しみいただけ、宿泊や宴会では、新鮮な海の幸が評判です。旅の疲れを最北の地で癒やしてみたいでしょうか?  
ご宿泊料金 ●1泊2食付き  
お一人様 7,290円~  
詳しくは大間温泉ホームページをご覧ください。  
<http://cld1.worldcom.ne.jp/~omaonsen/>



問い合わせ先 大間町海峡保養センター  
TEL 0175-37-4334

いまが旬!  
このへまち  
**五戸町**  
三戸郡

**桜・さくら**

五戸町ではたくさんの桜を見ることができます。その中でも「小渡平公園」には広々とした敷地に天然芝が敷かれ、4月下旬から5月上旬にかけて梅や桜の花を楽しむことができます。そのほかにも「うつぎさわの枝垂桜」は夜になるとライトアップされ、幻想的な桜を見ることができます。



問い合わせ先 五戸町観光協会  
TEL 0178-62-7155

いまが旬!  
なんぶちよう  
**南部町**  
三戸郡

**華やかに彩る稚児行列**

南部町春まつりが5月3・4日、法光寺境内を主会場に開かれます。初日の稚児入山行列には、色鮮やかな衣装を身にまとった町内の園児が参加し、まつりに花を添えます。また、芸能発表会やカラオケ大会なども行われるほか、法光寺周辺では、果樹の花見散策ウォークが開催され、町の自然を満喫することができます。(散策ウォークの参加には、申込みが必要になります)



問い合わせ先 春まつり 南部町役場商工観光課 TEL 0178-76-3230  
果樹の花見散策ウォーク  
南部町役場農村交流推進課 TEL 0178-76-2310

## ● 共済契約できる自動車

- あなたの所有する
- あなたと同一世帯に属する親族（同居の親族）の所有する

- 自家用普通・小型乗用自動車
- 自家用軽四輪自動車
- 自動二輪車 ● 原動機付自転車

## ● 共済掛金と共済金額

共済金額	用途及び車種区分	共済掛金額（年間）				
		自家用普通・小型乗用 小型貨物車(660cc超)	自家用軽四輪乗用 貨物車(660cc以下)	自動二輪車 (125cc超)	原動機付自転車 (125cc以下)	
A型	対人賠償	30,000円	19,000円	17,000円	12,000円	
	対物賠償					無制限
	自損事故傷害共済					1,000万円
	限定搭乗者					1,500万円 500万円
B型	対人賠償	33,000円	21,000円	20,000円	14,000円	
	対物賠償					無制限
	自損事故傷害共済					1,500万円
	限定搭乗者					1,000万円

※無共済等自動車傷害共済・他者運転特約も自動付帯。 ※自賠責保険と共済金の一括払も実施しています。

### 町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら！

町村生協の自動車共済にご加入の方のみ、車両共済(保険)に加入できます

- 町村生協の自動車共済で過去3年間無事故で、新たに車両共済(保険)に加入する場合、新規契約と比較して

## 33%割引（9等級）からスタート！

- 一括払いでご契約の場合は、さらに **5%割引！**
- 保険料分割払（12回）も選択可能です。
- ロードサービスも無料でサービス！

いつでもご加入いただけますので下記までお問い合わせ願います。

問合せ先 全国町村職員生活協同組合青森県支部  
青森県町村会総務課〔共済事業〕 TEL017 (723) 1331

# 自動車共済

万一の事故に備えを！



課・職名・氏名	主要担当業務
<b>総務課</b> 次長・総務課長事務取扱 澤田 憲郎 副参事 原子美香子 参事 上原俊一郎 主幹 高橋 由依 主事 高橋美登理 事務員 高橋 結衣 臨時事務手 小松田 真 〔共済事業〕 総括副参事 澤田 博美 副参事 神谷絵里香 臨時事務手 倉内 愛理 臨時事務手 松田 清子 非常勤事務員	(総務関係) 人事、規約・諸規程の改廃、予算、関係諸団体等との連絡調整、各業務の統合調整、総会その他の諸会議、総務厚生委員会、顧問弁護士、表彰、軽自動車税の移動、文書の收受・発送、各団体の予算経理、現金・有価証券の出納・保管、決算、物品の出納・保管、他の所管に属しないこと (共済関係) 公有建物・自動車共済、職員火災・自動車共済、任意共済保険、団体定期保険、総合賠償補償保険、個人年金共済、消防設備資金 事業計画、町村行財政の調査、産業経済委員会、法令外負担金の規制、要望・請願、町村长等・市町村職員の研修会、会報「あおもり町村自治」、

## 青森県町村会

常務理事兼  
事務局長

山口 昇

## 青森県町村会等事務分担

(平成26年4月1日現在)

確かな安心を！

# 住宅火災共済



## 安い掛金で大きな補償を

### ●共済契約できる物件

- あなたの所有する居住用建物、または、その建物内にある動産
- あなたと同一世帯に属する親族が所有し、かつ、あなたが現に同居している建物または、その建物内にある動産

### ●共済掛金と共済金額

共済掛金（年額）は共済契約1口（10万円）につき60円です。

契約額の最高限度は、600口で、6,000万円が限度です。

共 済 契 約 の 最 高 限 度			
区 分	口 数	共済金額	共済掛金
建物のみの場合	400口	4,000万円	24,000円
動産のみの場合	200口	2,000万円	12,000円
建物と動産を併せた場合	600口	6,000万円	36,000円

### 風水雪害特約制度

風水雪害特約制度は、風水雪害による損害について、火災共済契約に任意に付加することにより共済金を支払う特約制度です。特約を付加していない場合、風災、水災又は雪災による損害は、損害額が50万円以上の場合、損害の程度に応じ給付され、全損の場合では100分の10又は450万円のいずれか低い額の給付ですが、特約に加入することにより、火災共済契約の風水雪害共済金に加算して風水雪害特約共済金を損害額の50%又は火災共済契約額の50%のいずれか少ない額を限度に支払います。（ただし、風水雪害共済金と特約共済金の支払合計額が3,000万円を超える場合、3,000万円が限度となります。）特約共済掛金は、一口10万円につき50円です。（火災共済契約と同額を特約共済金額とします。）



### 青森県市町村総合事務組合

事務局長 山口 昇

主 事 鈴木 雅俊

町村職員採用試験、町村の振興発展に関する調査・研究、市町村職員等の自主研究の支援、県広報広聴協議会、全国山村過疎地域振興連盟県支部、発電関係市町村全国協議会県支部

課・職名・氏名

総 務 課

次長・総務課長事務取扱  
・会計管理者

澤田 憲郎

副 参 事 原 子 美 香 子

総 括 主 幹 上 原 俊 一 郎

主 事 高 橋 由 依

主要担当業務

消防団員等公務災害補償等に関する事務、非常勤職員公務災害補償等に関する事務、自治会館の管理・運営に関する事務

市町村税滞納整理機構

機 構 長 佐々木 明夫

課 長 高橋 淳一

副 参 事 伊藤 義章

総 括 主 幹 鹿内 勉

総 括 主 幹 平野 法泉

総 括 主 幹 田中 雅伸

主 事 加藤 奨

専 門 員 小 山 孝

専 門 員 木 村 榮一

研 修 職 員 (主 幹) 福 士 寿 幸

研 修 職 員 (主 事) 秋 田 伸 哉

臨 時 事 務 手 工 藤 誠 子

市町村税等の滞納整理に関する事務

# 随想

## 第21話



みつる  
**充**  
横浜町長

のざか  
**野坂**

### プロフィール

町議会議長、町観光協会長。  
現在3期目、63歳。

## なくされぬもの

・春は菜の花 日本一  
・夏の夜空に乱れ飛ぶゲンジボタルの美しさ  
・錦織り成す吹越烏帽子岳  
・天下一品横浜なまこ  
・人の情に心も熱く北の大地に夢を追う

これは、平成九年四月に町観光協会の会長に就任し同年十二月に結成されたよさこいチームの「横浜物語」の口上です。

横浜町は海・原・山と自然豊かなバランスのとれた南北二十三km、東西十二km周囲六十八km、面積一二・五五km<sup>2</sup>の細長い農業と漁業を中心とした町です。

気候は、ヤマセ（偏東風）の影響を強く受けるために日照不足、低温が続く、冬期間は西風が極めて強く雪と相まって厳しい環境であります。そんな中での産業構造です。農業につきましては水稻を主に馬鈴薯、長芋、人参、ゴボウ、菜種、畜産などの複合経営の農業形態であり、馬鈴薯は横浜町の風土と気象条件

に合った作物として契約栽培が継続的に行われています。当町のジャガイモは旨いと味には定評があります。

昔から馬鈴薯、後作に菜種とこれが輪作のベストだと作付が続けられてきました。菜種油を取るだけではなく菜の花畑では日本一のイベントを開催されて地域振興、産業振興に寄与しています。

七月にはホタル祭が開催されます。北限といわれるゲンジボタルの繁殖を南地区の子供会から老人クラブでまた県内外の協力を得てホタル村の方々が地道に取り組んでおり、ホタルが年々増えております。そして、子供たちに夢を与えてくれております。

初心者向けの登山者から注目を集めつつあります標高五百七mの吹越烏帽子岳からの眺めが素晴らしいです。むつ湾も太平洋も見ることができ、特に春には海の青、里の菜の花の黄色と山の緑、そして透き通った青い空が見られます。

秋には稲穂の黄金色が美し

い景観に変え錦を織り成しています。この最高の自然は子々孫々まで守っていかねればなりません。

冬はもちろん横浜町のブランドとして人気の高い横浜なまこ、「正月は横浜町のなまこでない」と言うほどファンも多く、これも、戦後に漁協役員の方々が苦勞して津軽や秋田県へ背負って売り歩いたからと聞いております。また、ホタテ養殖もあり、むつ湾の豊かな魚貝類は宝ものです。

平成二十四年二月一日、国道二七九号線が暴風猛吹雪により大型車が道をふさいでしまい、数百台の車が立ち往生し不通となり横浜町は完全に孤立してしまいました。避難所の開設にあたり国道沿線の全てのガソリンスタンドや商店には店を一晚中開けていただきましたし、消防団員には全車両の安否確認そして避難場所への誘導、車両の脱出作業に奔走していただきました。

避難者を受け入れたのは避難所だけではありませんでした。一般家庭や企業でも受け入れていただき、また、民家の方々もトイレを貸したりオ

ニギリや暖かいものを差し入れしたりと善意の輪が広がり続けました。

おかげさまで一人の犠牲者も無く翌日夕方全面復旧いたしました。困った時には自然に助け合うことのできる人情の厚い町民、その出来事を横浜中学校の先生方が生徒のスクールバスでの体験を踏まえ生きた教材、道徳教育として活用しています。

町ではさらに町民が安全に安心して生活ができ、絆を深めるために元氣な町内会活動助成事業、がんばる団体活動助成事業を展開しています。「人の輪がつながり、人の和が広がっていく菜の花のまちよこはま」をキーワードに北の大地で創意と工夫を凝らしたまちづくりを進めております。

今年も百二十七haの菜種が作付されております。五月の第三日曜日、五月十八日に「二〇一四菜の花フェスティバル in よこはま」が開催されます。満開の菜の花、幸福色しあわせいろに染まりに足を運んでみては。お待ちしております。以上が横浜町では絶対なくされぬものです。